

彦根市立病院

地 域 連 携

だ よ り

彦根市立病院

〒522-8539 滋賀県彦根市八坂町1882番地

TEL: 0749-22-6050(代)

問い合わせ先 彦根市立病院 地域医療連携室

TEL: 0749-22-6053 FAX: 0749-22-6093



いつもありがとうございます

骨粗鬆症の予防と継続した治療で

**健康寿命**を延ばしましょう!

整形外科

部長 堀 裕彦



超々高齢化社会の到来により、近年、大腿骨近位部骨折(股関節周囲の骨折)や胸椎・腰椎圧迫骨折が激増しています。これらの骨折は骨粗鬆症と深く関連しており、骨脆弱性骨折と呼ばれています。しかし残念なことに、これらの骨折で救急搬送されてくる患者さんの多くは骨粗鬆症の治療を全く受けておられない状態でした。かかりつけ医に通院しておられる患者さんにおいても、骨密度検査を一度も受けたことがない方もおられました。また、骨密度がかなり低いと指摘されていたにもかかわらず、骨粗鬆症薬の投薬を受けておられない方もおられました。

今後、地域の人々の骨脆弱性骨折の発生を減らし、健康寿命を維持・改善するためには、骨密度検査による診断と適切な骨粗鬆症治療が必要と考えます。

平成30年3月1日より新しい骨密度検査機器が稼働いたします。

旧機器では橈骨遠位部での撮影でしたが、新機器では脆弱性骨折の生じやすい腰椎や大腿骨近位部での撮影が出来、今までよりもさらに正確な診断が可能となります。

腰背部痛を訴える患者さん、円背が進行している患者さん、身長が低くなったと訴える患者さん、骨折の既往がある患者さんなど骨粗鬆症が疑われる患者さんがおられましたら、是非、当院への紹介をお願いいたします。

最近では、糖尿病などの内分泌疾患と骨質の劣化による骨粗鬆症との関連性も指摘されていますので、糖尿病患者さんにおいても骨密度検査を推奨しています。

今後とも、骨粗鬆症の診断・治療に全力を尽くしますので、よろしくお願いいたします。



当院整形外科へ紹介いただければ、**骨密度測定とセットで診察し、薬処方のご案内も**させていただきます。

いつでも地域医療連携室での予約をお待ちしています。ご紹介後は、逆紹介させていただきます。

びわ湖メディカルネット

お問い合わせ先 ☎077-582-5215



患者さまの医療情報を地域で共有し、包括的な支援を提供します。

骨粗しょう症は、骨密度の低下と骨質の劣化により骨強度が低下する病気です。骨折しやすくなり、寝たきりの原因ともなります。50代で10人に1人、70代で半数の方が骨粗しょう症になると言われています。

DXA（デキサ）は正確に骨密度を測定できる方法としてWHOの基準に組み込まれており、2018年現在、骨粗鬆症の標準的な診断方法となっています。

従来の装置は骨密度の測定のみでしたが...

新しい装置では骨密度の他に

骨質の測定・体組成測定もできま

※骨質の評価方法は、HSA（大腿部強度評価）と TBS(腰椎海綿骨構造評価)です。



◆ HSA（大腿部強度評価）

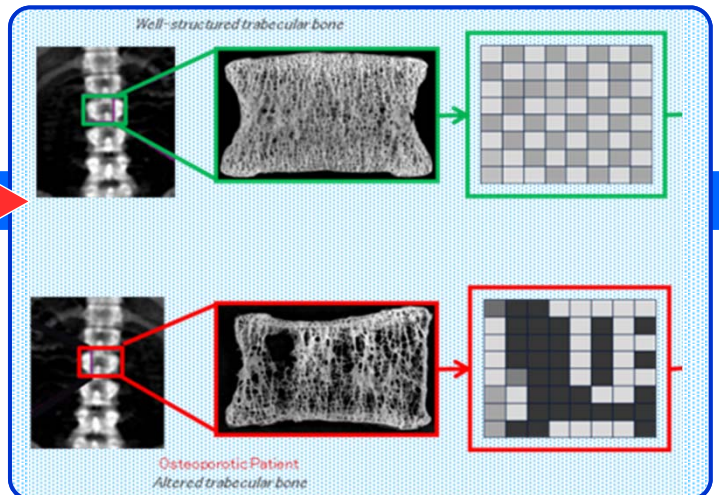
頸部、転子部、シャフトのしなやかさ、皮質骨の厚み、つぶれやすさ等を幾何学的に算出する。

このHSAに関しては骨粗しょう症学会でも重要な指標となっております。

◆ TBS(腰椎海綿骨構造評価)

脊椎は骨量が低下すると明らかな転倒などがなくても徐々に圧迫骨折がおこりやすくなります。腰椎には骨代謝が活発で骨の変化が現れやすい「海面骨」が豊富に含まれているため、他の骨と比べて骨の変化を捉えやすくなります。

マイクロCTで得られる海綿骨の構造情報と相関する値を算出し、劣化の度合いを評価します。



◆ 体組成測定

軟部組織量（臓器、血液、体液含む）、筋肉量、脂肪量をグラム単位で部位別に定量化することができます。適応症例は、内分泌疾患、メタボリックシンドローム、スポーツ医学などです。体組成測定は診療報酬の算定が出来ませんので、同時に骨密度検査を行います。

測定方法

写真のように、検査台に仰向けに寝ていただき、腰の生理的な屈曲を補正するために、膝を少し曲げて腰椎の測定を行います。この後、下肢を進展させ骨折しやすい大腿骨の測定も行います。

注意事項

- 検査時間は20分～30分ですが円背が強い人、仰臥位が取れない人は従来の方法になることがあります。
- CTやRIなどの造影検査が骨密度の結果に影響を及ぼす可能性があります。
- 検査料は腰椎＋大腿骨の測定で450点です。（従来は140点です）
- なるべく金具のない服装でお越しください。衣服に金具がある場合検査着を用意しております。
- 手術で腰椎・股関節に人工骨頭などの体内金属がある場合には、測定部位を変更したり計測が行えない場合がありますので事前にお知らせください。



先生方の機械の見学をお受けいたします。

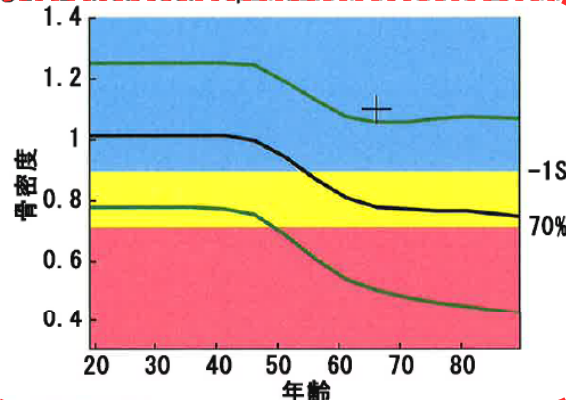
測定結果の見かた

骨密度測定結果

受診者番号	0000000	東洋メディック病院
名前	test 様	東京都新宿区東五軒町2-13
年齢・性別	66歳・女性	生年月日 1949/01/16
測定検査日	2016/01/12	測定部位 腰椎 L. 234
身長	150.0 cm	体重 45.0 kg
		TEL: 03-3268-0021 FAX: 03-3268-0264 http://www.toyo-medic.co.jp

グラフはあなたの結果と同じ年齢の平均を比べています。

©2012 Reference Japan L234 F-Tscore E-Zscore

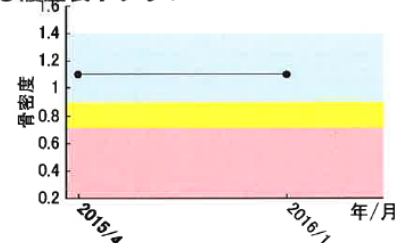


◎履歴一覧

No.	測定日	BMD	BMC	AREA
1	2015/04/27	1.097	57.347	52.291
2	2015/04/28	1.097	57.347	52.291
3	2016/01/12	1.097	57.347	52.291
4	2016/01/12	1.097	57.347	52.291
5	2016/01/12	1.097	57.347	52.291

BMD増減値 0.0000 g/cm³/年
BMD増減率 0.0000 %/年 比較4:5

◎履歴表示グラフ



この値（若い人との比較）が骨の状態の診断結果です。

◎今回測定結果

腰椎 L. 234を測定しました

あなたの骨密度は
1.097 g/cm³です
若い人と比較した値は
108 %です
同年代と比較した値は
141 %です

骨面積: 52.291 cm² 骨塩量: 57.347 g

骨密度判定	異常なし
コメント	今回の検査で、あなたの骨密度は、若い成人の平均値と比較した場合、標準値以上で問題ありません。また、同年代の人に比べても標準値以上といえます。これからもバランスのよい食事や適度な運動を心がけましょう。定期的に検査を受けて下さい。(C02)
	あなたの次回測定日は2016年05月頃です。

印刷日 2016年01月12日 Ver 2.10



YAM（若い人との比較の値）の評価判断

	骨密度値
正常	YAMの80%以上
骨量減少	YAMの70%以上80%未満
骨粗鬆症	YAMの70%未満



かかりつけ医様へ、お薬のお役立ち情報！

～ 冠動脈ステント留置後の抗血小板剤について ～



彦根市立病院循環器科では、狭心症や心筋梗塞への治療として、冠動脈へのステント留置を行っております。生体にとって異物であるステントに血栓症が起こると冠動脈閉塞に至り重篤な状態となる場合がありますので、その予防のため、抗血栓薬の投与を行います。



抗血小板薬 2 剤併用療法 (dual antiplatelet therapy: DAPT)

- アスピリン+チエノピリジン系抗血小板薬
※チエノピリジン系薬剤とは血小板のADP受容体P2Y12阻害薬
商品名はプラビックスやエフィエント
- アスピリン+プラビックス
またはアスピリン+エフィエントが標準的レジメ



ステントについて

以前は金属製ステント (bare-metal stent: BMS) を使用しておりましたが、現在は金属製ステントに比べ、再狭窄率が低い薬剤溶出生ステント (drug-eluting stent: DES) を、主に留置しております。DESはBMSに比べ、遅発性ステント血栓症予防のため、より長いDAPT期間が必要とされております。



循環器科 部長
池田 智之



DAPT療法・・・どのくらいの期間、飲み続けるの？

- 遅発性ステント血栓症予防のため、より長いDAPT期間が必要
- 日本循環器学会のガイドラインではDAPT期間は“少なくとも12ヶ月”と記載
- 狭心症や心筋梗塞といった動脈硬化疾患の患者様は同時に、頭蓋内出血なども合併する場合があるため、最近では3-6ヶ月のshort DAPTで十分であるという意見や試験結果も蓄積



先生方へのお願い

現段階では全ての患者様に一律のDAPT期間を設けるのではなく、患者様ごとにリスクを判断し、DAPT期間を考えるということが必要であると思われます。

観血的処置や合併症に関してはご迷惑をおかけしている場合もあるかと存じます。冠動脈ステント留置後の患者様について抗血小板剤を減量もしくは中止して良いのか、いつまで継続するのかにつきましては、いつでも当院循環器科にご相談いただければ幸いです。

New Face! 新任医師紹介



神経内科
部長 上古 眞理

1月より、神経内科の常勤医が着任しました。



このたび新しく彦根市立病院で働くことになりました。
皆さまよろしくお願いいたします。

- ◆ 大学卒業年：平成2年（1990年）滋賀医科大学
- ◆ 専門分野：神経内科
- ◆ 専門医：日本神経学会神経内科専門医 指導医 日本内科学会認定内科医
- ◆ 所属学会：日本神経学会、日本内科学会、神経治療学会、糖尿病学会、糖尿病合併症学会
- ◆ 抱負：この地域は神経内科常勤医不在が長かったと聞いています。今後、少しずつですが、地域の役に立てればと思っています。また、睡眠時無呼吸外来も開設する予定をしています。
- ◆ 趣味：ピアノ、スキー、登山
- ◆ ひとつこと：今は、予防医学以外に興味があり、昨年からアメリカのトップドクターから学ぶ機会を得ています。

外来日：月・水・金午前中
地域枠での御予約可能です。